

こんしゅう まね  
今週のことば「招き」

せいしょ ふくいんし  
《聖書》マタイによる福音書 22:1-14

しょう たい じゅう  
招待状

わたし けっこんしき はっぴょうかい そくりつき ねん  
私たちは、結婚式や発表会や創立記念  
び しょうたいじゅう う と  
日などの招待状をしばしば受け取ります。  
なか ぎ れいてき  
しかし、その中には儀礼的なものもあれ  
しゅっせき おも  
ば、どうしても出席したいと思うものも  
こころ しゅっせき おも  
あります。心から出席したいと思えば、  
つ ごう ぎ れいてき  
なんとか都合をつけますが、儀礼的なもの  
てきとう ようじ つく  
のとわかれば、適当に用事を作っ  
けっせき  
て、欠席してしまいます。

かなが ひと しょうたい  
このように考えますと、人を招待する  
とき こころ おく  
時は、できるだけ心のこもったものを送  
ちゅうい たいせつ  
るといことも注意すべき大切なことだ  
おも  
と思われます。

かみ く に まね  
神の国への招き

きょう り かい  
今日のたとえを理解するのは、とても  
おも  
むずかしいように思われます。なぜかと  
て  
いいますと、もとのたとえにかなり手を  
くわ つた  
加えて伝えられているからです。こう  
ば あい た ふくいんし ひえこうか しゅ さんしゅう  
場合は、他の福音書の並行箇所を参照す  
ひつよう  
る必要があります。

ふくいんし  
ルカによる福音書(14:15-24)のたとえ

きょうつう てん み ひと  
と共通している点を見ますと、ある人が  
えんかい きやく まね まね ひと  
宴会に客を招きましたが、招かれた人た  
いろ ようじ り ゆう しょうたい こと  
ちは色々な用事を理由に招待を断わって

しまいました。そこで、主人は町にいる  
ひと だれ つ き ないよう  
人を誰でも連れて来たという内容です。

まず ひと からだ  
ところで、ルカでは「貧しい人、体の  
ふじ ゆう ひと め み ひと あし ふじ  
不自由な人、目の見えない人、足の不自  
ゆう ひと つ い い  
由な人をここに連れて来なさい」と言わ  
こうどう あ  
れています。これは、イエスの行動に当  
ことば まね こと  
てはある言葉です。イエスの招きに答え  
ひと  
たのは、この人たちだったからです。

り かい かみ  
たとえから理解できることは、神から  
まね ひと  
の招きはすべての人にあるということ  
まね う  
です。ただ、招きを受けたにもかかわらず、  
り ゆう わたし ほう こと  
いろいろな理由をつけて私たちの方が断わ  
ば あい おお  
ってしまっている場合が多いということ  
です。

かみ まね こと しゃかい いっ  
神の招きに答えるためには、社会の一  
ばんてき ちから かん ふく  
般的な価値観にとらわれることなく、福  
いんてき ちから かん もと まいにち せいかつ おく  
音的な価値観に基づいて毎日の生活を送  
たいせつ  
ることが大切です。

ねんかんたい しゅじつ ねん たきの  
年間第28主日A年(滝野)